

巻頭言

徳島大学留学生センター長 永田俊彦

平成17年3月に策定された「徳島大学における国際化ポリシー」では、徳島大学が世界に通用する人材の育成と教育研究の向上に組織的に取り組み、地域に根ざした国際活動を展開し、同時に学生および教職員の国際化意識の向上を推進させることが謳われております。私なりに考える留学生センターの存在意義は、センターが各部局と連携して留学交流を活発化することによって、徳島大学が世界にはばたく優れた大学となれるように努力することにあると認識しています。このような活動が円滑に推進されれば、結果的に国際化ポリシーは実現されます。しかし、国際交流の推進は一部の人々によって達成されるのではなく、大学にいる全ての人の意識改革なしでは実現できない事項であり、このことが最も重要であることも自覚しております。徳島大学では、平成19年2月現在で世界27カ国250名の留学生が学んでいます。その内訳は男性144名・女性106名、身分別では学部学生50名・大学院生162名・研究生その他38名、地域別ではアジア224名・中近東5名・アフリカ10名・中南米4名・北米3名・ヨーロッパ4名となっております。徳島大学の留学生数は年々増え続け、平成10年度と比較すると約7年間で2倍に増加し、昨年と一昨年は250名前後で一応の落ち着きをみせています。このような現状の中で、留学生センター教員は日本語教育、生活支援等に忙しい毎日を送っています。

この紀要および年報は、留学生センター教員の研究や実践活動の報告の場として発行されるものです。センター教員が日々の業務の合間にこつこつと研究活動を行い、その成果を形に表わした記録集でもあります。私自身は医歯薬学系の研究を行っておりますので、ここに掲載される研究の詳細は把握できないところもありますが、私にとって新鮮で興味深い内容であることは間違いありません。日本語という言語研究、日本語教育の研究、異文化に関する研究等についての報告を通じて、センターのアクティビティがさらに向上し、留学生による研究も一層活発となることを希望しております。